

月刊 動労千葉

動労千葉結成10周年!

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

89.8.25 No.3075

ハンドル・ハンマーを再びわが手に
闘いを通して全員必ず原職に戻る

清算事業団支部
林支部長

中村副支部長

8/21 事業団闘争勝ちとる



六時十五分、田中企画部長の司会で集会は始められ、冒頭、主催者を代表して中野委員長があいさつに起ち「清算事業団十二名の仲間と被解雇者二八名を取り戻すまで分割・民営化反対闘争に終りはしない。地労委早期勝利命令を勝ちとり、今秋(年末を文字通り決戦として闘わなければならぬ)、ストライキをもって総決起していこう」と熱烈にアピールした。



佐溝氏 若松氏 広田氏

つづいて、県労連の広田事務局長、県社会党の若松副委員長、千葉地区労の佐渡議長がそれぞれ連帯のあいさつを行ない「『敵より一日長く』の精神でがんばろう」「地労委の早期勝利命令を勝ちとろう、十二名を職場に取り戻すために、地区労も全力で支援行動に立ち上ります」「自民党をさらにおいつめよう」と訴えた。

つづいて千葉市内デモを終えたばかりの三里塚反対同盟の北原事務局長がかけつけてくれ「収用委再任命を絶対に許さず、農地死守・実力闘争で闘いぬく。十・一二には全国集会を開催するので全力で結集して下さい」とアピール。



北原事務局長

(国労北九州支部・小柳春利、国労共闘九州・高田末博、北富士忍草母の会、全国一般・長崎連帯支部、全関西実行委員会・永井満各氏)、参加者の圧倒的拍手によって確認された。

さらに、弁護団を代表して清井氏が発言に起ち「勝利命令を確信している。だが勝利命令をただの紙切れにするかどうかは、これからの闘いにかかっている。動労千葉の闘いこそが真の勝利を勝ちとることのできる唯一の道である。弁護団も動労千葉の闘いと固く連帯して最後の勝利の日まで闘いぬく」と訴え、地労委闘争の現行形を詳解した。



清井氏

布書記長が基調報告を行ない「今日を起点に、今秋(年末)ストライキに総決起していこう、JR、清算事業団、解雇者を貫く闘いで必ず勝利しよう」と、アピールした。

いよいよ、清算事業団からの発言である。万雷の拍手の中、林支部長を先頭に一列に並び、林支部長から一人一人紹介される、全員の顔は自信と確信に満ちあふれている。事業団を代表して、林支部長と中村(俊)副支部長の両氏が発言に起ち、林氏は「二年半、歯をくいしばって頑張ってきた、地労委の勝利は〇〇%確信しているが、勝利命令だけに頼ってはならない、真に勝利するための闘いは、これからにかかっている。ハンドル・点検ハンマーを再び握りしめるために、十二名は動労千葉の最先頭で奮闘する」。中村氏は「(JR・国鉄当局)ふざけるんじゃない、俺たちは本当に怒っている。闘いを通して十二名は全員必ず、原職場に戻る」と熱心に訴えた。会場からは「ヨーン」「ガンバレよ」と声援が飛びかう。動労水戸の仲間が襍布をもってかけつけてくれ、林支部長に手渡す。



家族会 林会長

つづいて、家族会を代表して林会長、杉本青年部長が決意表明し、最後に清算事業団支部の中村仁青年部長が集会宣言を読み上げ、全参加者の拍手によって承認された。いよいよ、千葉支社に対する抗議デモである。十二名の仲間を先頭に、青年部、親組合員、地区労、交流センターの隊列が千葉支社にむかって出発する。権力の不当弾圧をはねのけて、固いスクラムを組みながら市内デモを貫徹し支社に到着する、支社前では断固たるシュプレヒコールが叩きつけられ、抗議行動が貫徹された。

八・二一は到達点ではない、闘いへの出発点だ。今秋(年末)ストライキにむけて頑張ろう。十二名の仲間を原職に奪還するために奮闘しよう。

全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した10年!